

受入団体名：京都府立堂本印象美術館

プロジェクト名：堂本印象美術館広報プロジェクト

募集人数

15名

<活動期間：2023年10月1日～12月31日>

<活動日or 活動パターン>

■週1日程度・定例 ⇒ 原則火曜日5限の予定。
事前・事後学習等の授業予定で変更の可能性あり

<活動の流れ>

日時	活動内容
10/03まで	堂本印象美術館で来館者として過ごす(個別)
10/03(火)	堂本印象美術館の紹介と活動内容の確認
10/10(火) 10/17(火) 10/24(火)	チームづくりと課題・目標設定 広報に関する基礎講座・活動方針の確定 (予定)
10/31(火) 11/07(火) 11/14(火)	展覧会告知キャンペーンの企画作りと 実施に向けた記事の作成、関係部署との調整 (予定)
11/21から	展覧会告知キャンペーン・スタート
11/24～12/8	展示替え期間・12/8(金)は内覧会 (参考)
12/9～	若き日のロマン展・京都工芸美術作家 開幕 (参考)

<主な活動場所>

堂本印象美術館
立命館大学内の教室

<キャンパスからの交通手段>

徒歩

<活動に必要な費用>

なし

<参加の姿勢>

自身の学びをチームで活かしつつ
チームへの信頼と敬意を大切にする
気概があると嬉しいです

<コミュニケーションの手段>

☐電子メール ☐ Facebook

☐LINE ■電話

■その他(Slack)

<活動のテーマと主な内容>

美術館を知らない人のためにアート魅力を発掘する

美術館に来る機会がない人、美術館の存在を知らない人に向けて、美術館の楽しみ方やアートの魅力を知ってもらえるよう、Instagram、Twitterを活用した美術館の広報活動を行っていただきます。

昨年、2022年度は約10人の学生と共に美術館を知るところから始まり、SNS記事の制作と発信を行ながら、最後はTwitterを活用した来館者獲得企画の提案を頂くところまで活動が進みました。

今年は昨年の提案を元に、12月9日から開催予定の2つの展覧会「若き日のロマン、大正時代の印象さん」と「第4回京都工芸美術作家展」の開幕に向けたキャンペーンの企画と実行を皆さんと共に取り組み、1人でも多くの方にアートの魅力を伝えたいと考えています。

堂本印象美術館
Twitter / Instagram



<活動する現場で学生が求められる背景(理由)>

堂本印象美術館は立地こそ立命館大学衣笠キャンパスの正面ですが、来館者の内訳を見ると10代、20代の方の来館は全体の1割程度しかありません。

「美術館に馴染みがないから?」「アートに興味がないから?」「実は美術館があることすら知らないのでは?」原因を考えてみても美術館のメンバーだけではその答えや解決策を見つけることは困難でした。

そこで多くの人(特に若い人)に美術館へ来てもらえるような活動を、学生の皆さんの力を借りて行いたいと考えて、今回のプロジェクトを企画しました。

<学生が期待できる学び>

美術館の活動や取り組みを知ることとあわせて、「世の中の人々は美術館に何を求めているのか」、「美術館は世の中にどのような価値や経験を提供できるのか」を考えながら、広報を通して美術館と世の中を繋ぐ活動を行っていただきます。

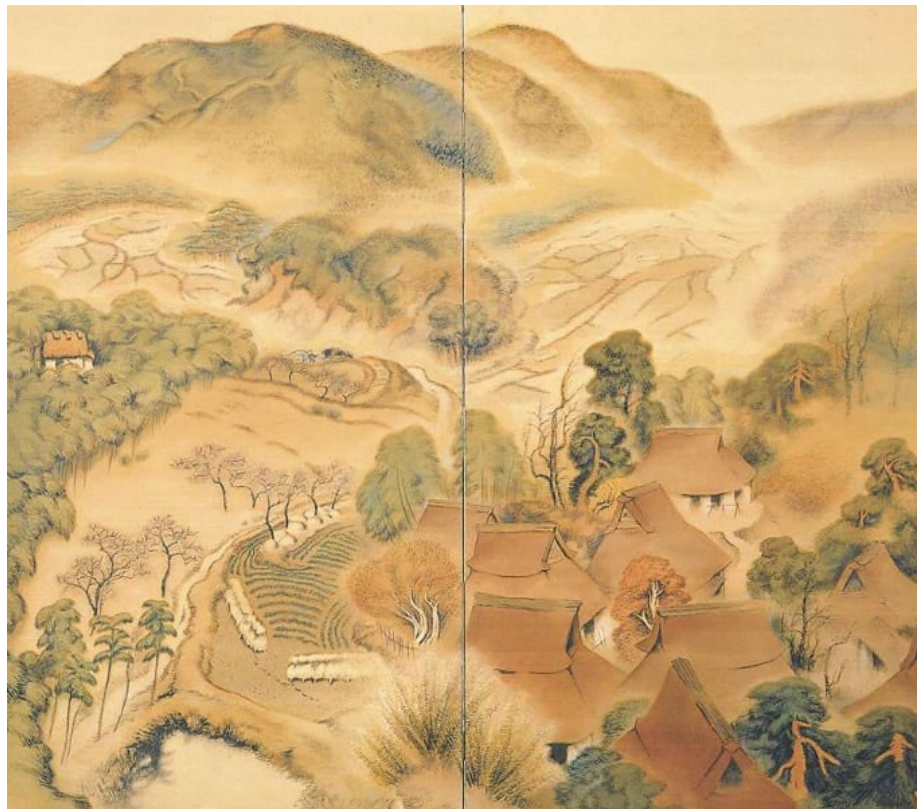
活動を通じて学生の皆さんには、組織が広報活動を行うためのコミュニケーションのあり方やその効果的な運営について実践的な学びを得ることができると考えています。

堂本印象と美術館のこれまで：略歴

1891年	京都市上京区に生まれる
1910年 19歳	京都市美術工芸学校卒業 西陣織の図案書きとなる
1918年 27歳	京都市絵画専門学校入学
1919年 28歳	第1回帝展に初入選
1952年 61歳	初めての渡欧
1961年 70歳	文化勲章受章
1966年 75歳	堂本美術館開館
1975年 84歳	逝去



堂本印象と美術館のこれまで：代表作



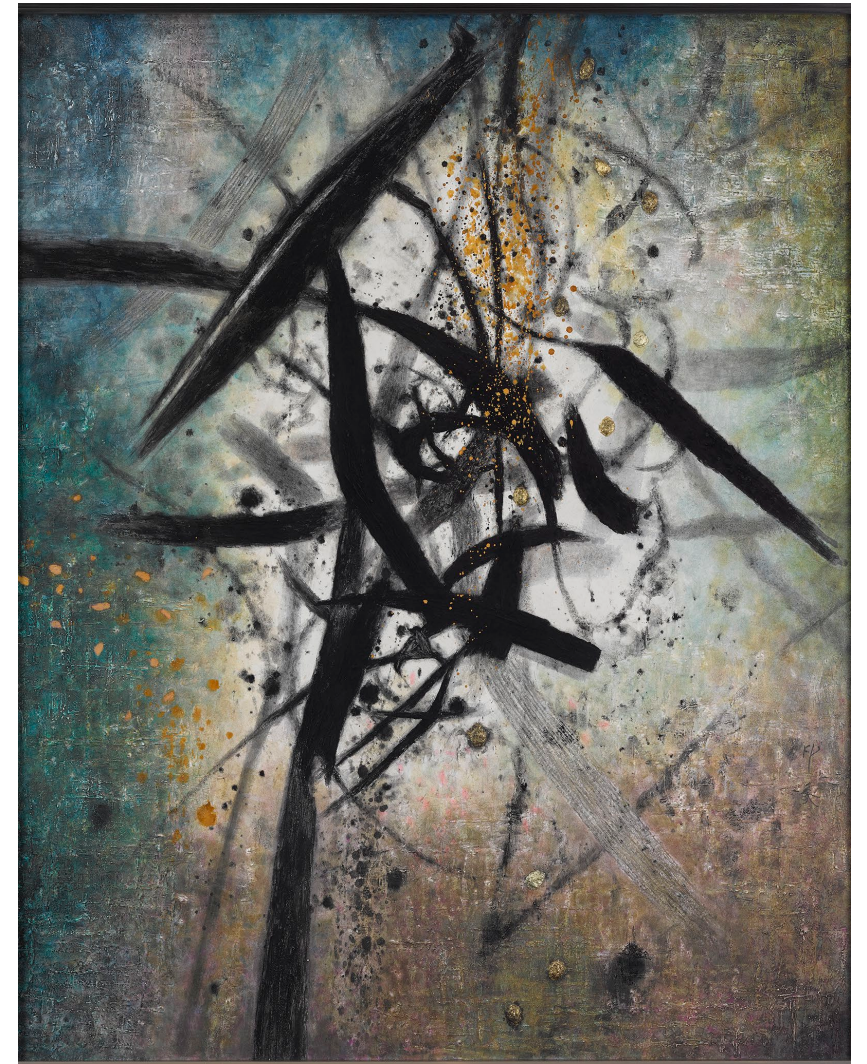
《深草》 1919年(28歳)



《木華開耶媛》 1929年(38歳)



《疑惑》 1954年(63歳)



《交響》 1961年 (70歳)

堂本印象と美術館のこれまで：美術館の誕生

1966年「堂本美術館」として開館

○個人が設立した美術館

○建物からドアノブまですべてが
堂本印象のデザイン

○渡欧の際に目にした宮殿や
邸宅を用いた個人美術館を参考

1992年「京都府立堂本印象美術館」へ

○作品、美術館、財産が京都府へ寄贈

2022年 開館してから56年が経過

○指定管理者制度により

公益財団法人京都文化財団が管理運営



《開館当時の美術館外観》1966年